

いつものまえがき

本書は「とにかく人のオナニー事情を知りたい」という衝動から生まれた活字作品となります。

スタジオTOMでは普段、音声作品でおひと方のオナニー事情について深掘りしていますが、今回はひとつのテーマに絞り、複数の方から文章で語っていただくというスタイルとなっております。

今回はオナニーの原点である「初めてのオナニー」についてスポットをあて、5名の女性に「あなたの初めてのオナニー、または記憶にある最初の意図しない自慰について聞かせてください」とお願いし、ご回答いただいたものをまとめたものの第三弾となります。

前回同様、いただいた文章にはできるだけ手を加えず、誤字脱字や日本語的に意味が伝わりにくいもの、改行や三点リーダーなどの細かい部分のみを編集し、極力原文のままを掲載しております。

そのため、一部読みづらかったり、変な日本語となっている場合がございますが、それが「個性」であることをご理解いただけると幸いです。

もちろん、編集のくだらない妄想で変なスパイスを足すなんて愚かな行為はしておりません。回答者の女性自

らが紡いだ言葉で、自らの「初めてのオナニー」を表現していただいております。

これを読むことであなたの知識欲を満たし、妄想のネタとなり、オナニーを捗らせる。

本書がその一助になることを願っています。

企画・編集・制作 沢尻

ケース① 疲れた時にシャワーで

① プロファイル

名前	まあこ
年齢	四十歳
職業	フリーランス
出身地	東京都
趣味	映画鑑賞

② 報告内容

今になって「あれってオナニーだったよね。」とおもうことは、●校生のときにシャワーを股間にあてて感じてたことです。

当時のわたしはあまり自慰行為などをしたことがありませんでした。

そんなある日、その日はすごい疲れていていつもは湯船に入るのですが、すぐに寝たいということもあり、シ

ヤワーだけで済まそうとお風呂に入りました。シャワーは基本立ったまま浴びることが多かったのですが、その日は疲れていたのので椅子に座りました。

ちよつとうとうとしながら、「とつととシャワー終わらせよう」とおもしろい全身を洗って陰部も洗い、シャワーをかけると思いのほか気持ちいい。

クリにシャワーの刺激が強く当たったんです。

しかもその時、親が節水のためにシャワーヘッドを変えていて圧力が強くなっていて、今までにない刺激を座った状態で受け、すごく気持ちよくなってしまったんです。

眠いとなんかムラムラすることがあったのですが、それにプラスしていろんな事が重なり、はじめての刺激をクリに感じました。

そのまますごく気持ちよくなってしまい、足を広げてより刺激を感じられるような体勢になりシャワーを陰部に当て続けました。

腰が浮いてしまうぐらい感じ、声も出そうになってしまい、自分でもちよつと驚きでした。

それぐらい気持ちよかったです。

シャワーヘッドを上下に動かしてみたり、クリにシャワーヘッドを押し当ててより強い刺激をかんじてみたり、わざと離して弱い刺激をあててみたり。

いろんな刺激を与えました。
そしてそのとき、はじめてイクという感覚を覚ええました。

それからというもの、お風呂に入ると最後にシャワーでクリを刺激してしまうようになりました。

たまに立ったまま下からシャワーで刺激を当てたり、和式でおしっこする姿勢にして、下から当ててみたり…。

指を入れるなどはしなかったので、オナニーをしているという感覚はあまりありませんでした。

シャワーヘッド見ると今でもたまにその気持ちいい刺激を思い出しますね。

③ 当時に振り返った感想

とても気持ちよかったですし、結構衝撃ではありましたが。それからオナニーに目覚めたかな…とかはおもいません。